



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

口腔発癌モデルを用いた口腔癌発生の分子病理学的 追究とその化学予防の基礎的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田中, 卓二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/182

はしがき

本研究は、申請者が確立した4-NQO誘発ラット口腔癌モデルを用いて、口腔癌の発生過程を分子病理学的に解析するとともに、その発育・進展を阻害するいわゆる化学予防物質の検索とその阻害機構を明らかにし、一次癌・二次癌を含めた口腔癌の予防・治療に有用な基礎的資料を得る事を目的として行われた。その成果をこの報告書にまとめたが、御一読のうえ、御批判、御助言を賜れば幸いである。本研究の開始と同時に3年間にわたる文部省の研究補助金を受けることができたことを心から感謝する次第である。

研究組織：

研究代表者 田中卓二（岐阜大学医学部病理学第一講座・助教授）

研究分担者 杉江茂幸（岐阜大学医学部附属動物実験施設・助教授）

吉見直己（岐阜大学医学部病理学第一講座・講師）

森 秀樹（岐阜大学医学部病理学第一講座・教授）

研究経費：

平成5年度 900千円

平成6年度 700千円

平成7年度 300千円

計1、900千円

研究発表：

(1) 学会誌等

1) Takuji Tanaka, Yukio Morishita, Masumi Suzui, Toshihiro Kojima, Ataru Okumura, and Hideki Mori: Chemoprevention of mouse urinary bladder carcinogenesis by the naturally occurring carotenoid astaxanthin. *Carcinogenesis*, 15: 15-19, 1994.

2) Toshihiro Kojima, Takuji Tanaka, and Hideki Mori: Chemoprevention of spontaneous endometrial cancer in female Donryu rats by dietary indole-3-carbinol. *Cancer Res.*, 54: 1446-1449, 1994.